

□■養成所ニュースプラス第1号 2024□■

今週から当養成所のメールマガジン「養成所ニュースプラス」の今年度の配信を始めます。第35期生や第36期生、そして配信を希望した修了生の皆さん、どうぞよろしくお願いします。

このメルマガでは、当養成所での学習や国家試験に関する情報をお伝えしていきます。国家試験の合格まで一緒に歩んでいきましょう。第1号から第3号までのコラムのテーマは「レポート作成講座」です。

その前に、新入生には早くから試験の問題に慣れていただくため、毎回各学期の科目から過去問題を紹介していきます。2年次生の皆さんも引き続き取り組んでいきましょう。今回は「医学概論」から廃用症候群についての問題です。選ばなかった選択肢のどこを直せば適切になるかも重要です。あわせて考えてみましょう。

■Plus Quiz・・・・・・・・

【第36回問題7】廃用症候群に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 若年者にも生じる。
2. 数日間の安静では、筋力低下は起こらない。
3. 長期臥床により筋肉量が増加する。
4. 骨粗鬆症は安静臥床により改善する。
5. 予防することはできない。

正答と解説は最後に記載してあります。

■Yoseijo Info・・・・・・・・

- ・(35期生)教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)の支給希望の方へ

申請書類一式は原則として、再発行はできませんので、お取り扱いにはご注意ください。

本養成所からの申請書類発行のため、「受給資格者証と公的身分証明書のコピーの提出」及び「レポートの提出」「スクーリングへの出席」「授業料の納入」が必須となります。

- ・(36期生)教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)の支給希望の方へ

「受給資格者証と公的身分証明書のコピー」の提出をされていない方は、早急に提出してください。

- ・(36期生)見込書類(実務経験証明書)のさしかえについて

入学願書提出時に「実務経験見込証明書」を提出している方は、入学資格または実習免除を満たした期間の「実務経験証明書」の提出が必要となりますので、早急に提出してください。

- ・受講の手引の表紙裏(表紙の次のページ)に“レポート作成・提出チェックリスト”があります。

レポートの作成・提出の前に必ず確認してください。

■Test Info・・・・・・・・

国家試験に関する情報をお届けします

- ・第37回国家試験は、令和7年2月上旬です。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1286425&c=3246&d=99c7>

- ・第37回国家試験から適用する社会福祉士国家試験合格基準並びに総試験時間数が公表されました。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1286426&c=3246&d=99c7>

- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟主催の全国統一模擬試験のご案内です。

※申込開始は、令和6年6月初旬を予定していると案内されています。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1286427&c=3246&d=99c7>

■Plus Info・・・・・・・・

その他の情報をお届けします

・日本知的障害者福祉協会では様々な情報を発信しております。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1286428&c=3246&d=99c7>

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1286429&c=3246&d=99c7>

■Plus Column

【レポート作成講座第1号／課題と対話する】

第36期生の入学オリエンテーション動画では「ソーシャルワークの基盤と専門職」のレポート課題についてお伝えしました。今回はそれ以外の5科目を取りあげます。

レポート課題で担当教員は何を評価するのか、それを示しているのが<レポート作成のポイント>です。何が求められているのかを理解してから書き始めましょう。

「医学概論」の課題番号1では、2つの点を述べるようにとあります。同じく課題番号2では、レポートで述べる内容の枠組みが示されています。「心理学と心理的支援」「社会学と社会システム」でも、内容に含まなくてはならない点が示されています。内容に漏れがないように作成しましょう。

また、具体例や事例を挙げて述べるのが指示されている課題もあります。「心理学と心理的支援」の課題番号1では、「あなた自身の経験にも触れながら」、同じく課題番号2では、「ABC分析を用いたケアについて、具体例と共に考察すること」、「社会学と社会システム」の課題番号1では、「自殺に関する具体的な事例を挙げて」、同じく課題番号2では「自分の経験を分析し最後に考察を加えること」とあり、「ソーシャルワーク演習」のレポート課題文には「相談援助事例を通し」とあります。

指示されているにもかかわらず、経験や具体例、事例がないレポートは不合格になります。事例をもとに知識や価値・倫理をもって考察することは、ソーシャルワークの学びでもとても大切な過程になります。この機会を大事にしましょう。

「ソーシャルワークの理論と方法(1)」と「ソーシャルワーク演習」は「あなたの考えを述べなさい」とレポート課題文にあります。テキストをそのまま写すのでは自分の考えを述べることにはなりません。論理の飛躍や「決めつけ」がないか点検することや他人の考えと自分の考えは分けて書くことを意識しましょう。

「受講の手引」18ページには「課題を理解すること」は、出題者の言っていることを「傾聴」することと書きました。傾聴という技術を使い、出題者の意図を受け止めて、とりかかりましょう。次回は文章作法についてお伝えします。※科目名については、丸数字が文字化けするため算用数字で記載しています。

【Plus Quiz 正答と解説】

共通科目テキスト「医学概論」には、「廃用症候群とは、過度の安静状態(活動低下)や長期臥床が続くことで、将来の生理機能が低下して生じる一連の症候」であり、「二次的に生じた障害である」とあります。第5章第3節には、「比較的短期間の安静臥床で健康な若年者にも生じ得る。」とあり、第6章第17節には、特に「高齢者が廃用症候群になると元に戻すことが困難になるため予防が重要」とあります。皆さんが働く施設やご家族の介護、ご自身の病気やケガでも、できるだけ寝たまゝの状態を少なくすることが重要であることが理解できます。「廃用症候群」は、第30回でも出題されています。

1. ○若年者にも生じます。高齢者に限らず長期臥床や過度の安静で廃用症候群を引き起こします。
2. ×数日間の安静でも筋力低下が生じます。例えば、ギプス固定で1日につき1-4%、3～5週間で約50%の筋力低下が生じるといわれています。
3. ×長期臥床により筋肉量は減少します。筋萎縮等により筋肉量が低下し、筋力が低下、運動機能が低下していきます。

4. ×動かないことで骨萎縮が生じ、骨粗鬆症が悪化します。

5. ×不活動状態にしない対策で予防することができます。急性期リハビリテーションでは早期離床等が行われ、高齢者分野でも介護予防の取り組みが進められています。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus